

平成30年度 看護師職能委員会活動計画

委員長 安部小夜子
副委員長 金木こと江
理事 岡本久美 梶谷美智代 大森広子
委員 平井淑子 守谷智江 應治洋子 脇本美香
佐藤恵子 宗森弘美 大杉靖子

看護職能 I 領域と II 領域

看護師職能委員会 II (介護・福祉関係施設・在宅等領域)

- ・平成23年度 日本看護協会看護職能委員会 II 立ち上げ
- ・看取り、認知症、看護管理者の育成策等現場の課題抽出
- ・介護施設における看護職のための系統的な研修プログラムや看取り研修プログラムを作成、普及周知



地域包括ケアシステム構築のさらなる推進に向け、地域の医療と介護の連携を図る視点から、平成30年度は**診療所の看護職**を含めた組織化を進めていきたい。

看護職能 I 領域と II 領域

看護師職能委員会 I (病院領域)

医療提供体制の変化に病院領域の看護職が対応するため、在宅療養支援や看護師のキャリアなどをテーマに活動を進めている

病院領域では様々な職種が患者へ直接関わる機会が増えていた一方で、各職種が得た情報を統合することが容易ではなく、患者へのケアが一貫しにくい現状が明らかとなった。

- ・多職種連携における病棟の看護師のさらなる専門性の発揮に向け、情報収集・課題発見・意見集約を行う
- ・平成30年度は、地域包括ケアシステムの構築ならびに地域における医療・看護を提供するための仕組みの構築に向けた看護管理者の連携に関する現状を把握し、課題発見を行う。

平成30年度 岡山県看護協会 重点政策と重点事業

1. 地域包括ケアにおける看護提供の構築と推進

- 地域における看護職間及び多職種とのネットワーク強化
- 地域看護の提供体制の拡充
- 母子から高齢者まで地域全体の地域包括看護機能の強化
- 健康寿命の延伸に向けた地域連携推進

JNAモデル事業参加
長期ケアを担う看護管理者
研修プログラム実践と評価

2. 看護専門性の向上と実践能力の強化

- キャリアース活用によるキャリア開発支援
- JNAクリニカルリーダーの活用で看護実践能力向上
- 地域包括ケアシステムにおける看護の役割と看護の主体性の推進
- 在宅・介護施設などの看護機能の強化を図る研修
- 地区支部と連携した研修体制の構築から、研修の拡大と効率化
- 特定行為に係る研修受講の推進と活動の場の確保

キャリアース登録状況
(H30.7.17現在)
ONA全会員: 16,505名
看護師: 14,650名
准看護師: 764名
キャリアース登録: 4,921名(30%)

3. 看護職の労働環境の整備と推進

- 勤務環境改善の推進
- ナースセンター機能の強化による再就業と定着の支援

働き方改革関連法案(6/29)
年休取得5日以上
勤務間インターバル制度

4. 平時の危機体制の整備と巨大地震などの災害対策の推進

- 災害看護の啓発強化と災害発生を想定した体制整備
- 災害支援ナース登録の推進
- 災害協定期間などとの連携強化

岡山県看護師職能委員会主催 看護師集会

対象者	開催日時	テーマ	重点政策
施設 代表者	H30.8.18(土) 9:30-12:00	平成30年7月豪雨災害から 災害対策と災害支援を考える	4. 危機体制整備 と災害対策推進
看護職 全体	H30.9.11(火) 9:30-16:15	こころが折れない人間関係 ～楽しく働けるヒント～	3. 看護職の労働 環境整備と推進
協会員 非協会員	H30.10.27(土) 10:00-15:30	介護施設の看護マネジメント	1. 地域包括ケア における看護提 供の構築と推進 2. 看護専門性の 向上と実践能力 の強化
	H30.12.7(金) 9:30-16:15	在宅・高齢者ケア施設看護職 の交流会part3 在宅・介護施設等の看護マネジ メントと連携	
	H31.2.19(火) 9:30-16:15	地域との連携を図る 入院前から退院後までの取組み	

日本看護協会 職能委員会規則

・第2条(任務)

職能委員会は、職能上の問題を審議し、会長に助言する

・第3条(機能)

職能委員会は次に掲げる機能を果たすものとする

①各職能の抱えている問題から、今後取り組むべき課題を整理する

課題発見機能

②本会の活動方針や重点事業を会員に周知し、現場の意見を集約する

意見集約機能

8/8 全国看護師職能委員長会 I ～今年度の事業テーマ～

1) 地域包括ケアシステム構築に向けた病院の看護管理者と 行政保健師の連携の現状

- 事例毎での保健師との連携はあったが、**行政保健師との連携**は岡山県以外にはなかった。倉敷地区保健医療福祉施設代表者「なごみの会」の取り組み(35施設で構成され、そのうち行政保健師が3名参加。年3回定期開催し、情報共有、意見交換を実施)を紹介した。主体的に発足し、長年継続しているが、看護協会との連携が必要である。

2) 医療チームにおいて、病棟の看護師のさらなる役割発揮の ために必要なこと

- 結論として、JNAラダーの「調整力」を高めるための教育が必要であること、クリニカルラダーでどのような役割発揮ができればよいか業務レベルを明確にして、育成すること、つまり**看護管理者は求める役割能力を明確にし、人材育成のしくみを構築**する必要がある。チーム力を高めるためにジェネラリストの育成と有効活用が重要である。次回10月の支部会議では、**好事例の紹介**を予定している。

8/8 全国看護師職能委員長会 II ～今年度の事業テーマ～

「暮らしの場で働く看護職」が考えるべきリスクについて、意見集約、課題発見を行う。

1. 訪問看護、介護施設、診療所等で働く看護職の課題発見と情報共有による組織強化策を検討する。(特に診療所)

地域包括ケアシステム構築のさらなる推進に向け地域の医療と介護の連携を図る視点で診療所の看護職を含めた組織化を進めていく。

2. 看護管理者が考えるべき労働者及び療養者のリスク管理について検討し、意見を集約する。

地域に中・重度療養者が増加しニーズも多様化し、療養者・看護職双方の安全上の課題が顕在化している。